

4月26日 ヨハネによる福音書4章7節～26節

【解説と黙想】

## 信じて歩む道：神を知る喜びに生きる

### テキストの解説

「サマリア」パレスチナ中部に位置し、北部のガリラヤと南部のユダを分断する。サマリア人は、バビロン捕囚時に捕囚されずに取り残された民が周辺民族と混血した形成された民と言われる。モーセ五書のみを受け入れる「サマリア教団」を形成しており、ユダヤの人々とは対立関係にあった（9節、ルカ10：30～36など参照）。

「サマリアの女」通常、人々が井戸で水を汲むのは、早朝や夕刻（創24：20）で、「正午ごろ（6節）」に水を汲みに来たこの女性は、周囲との距離をとりたいたと考えていた。もしくは取らざるを得なかったと考えられる。

「五人の夫」夫と死別した際など、別の男性と結婚するのは禁じられておらず、むしろ親族が寡婦を娶る制度もあった。その上で、五人もの男性と別れざるを得なかったことが女性が周囲と距離を置かなければならない理由であったかもしれない。

「ヤコブ」旧約聖書の族長の一人、イスラエルの祖。創世記にはヤコブが井戸を掘ったエピソードはないが、現在でもこの地域には「ヤコブの井戸」と呼ばれる古い井戸が存在し、人々の生活を支えている。サマリアとユダ共通の権威であり、サマリア人はこの井戸の存在を自分たちと族長と

のより強い結びつきを示すものと受け止めている。

「この山」ゲルジム山のこと。モーセによって祝福が置かれた（申命記11：29）。サマリア人は、エルサレム神殿の権威を否定し、ゲリジム山での礼拝を主張した。

女性の問いは、サマリア教団とユダヤ教の間の正当性を問うものであると同時に、キリスト教も含めて、信仰の正当性の基盤を問いかけている。イエスは、礼拝の場所ではなく、霊とまことにおいて献げる礼拝こそが信仰者を支える唯一の基盤であることを示す。

### カテキズムの解説

問2は、問3とともに、第一部のまとめとなっている。問2は今週と次週に分けて、今週は前半を扱う。前半のうち、「栄光をあらわし」「喜び」はウェストミンスター小教理問答問1における「人の主な目的」の内容である。

「知る」こととその裏返しとしての「教える」ことは、カテキズムだけでなく、聖書自体において信仰を支える基盤とされる（下記参照）。単なる知識にとどまらない、まことの意味での神知識が、信仰者を生かし「神と人を愛する」人本来の歩みに押し出すのである。（長田詠喜）

《参照聖句》 カテキズム参照聖書箇所その他、申命記6章6～9節、詩編1編、ローマ10章14節  
 《教理問答》 子どもと親のカテキズム 問6、ウェストミンスター小教理問答 問1、ハイデルベルク信仰問答 問2

4月26日 ヨハネによる福音書4章7節～26節

【説教展開例】

## 信じて歩む道：神を知る喜びに生きる

◇..... 単元のねらい .....◇

人生の中心的基盤として、信仰生活の柱として、礼拝の核として、「神さまと出会い、神さまを知る」ことの大切さ、神さまを知ることが、私たちの生活を動かすことを知る。

### 「礼拝でお会いする方」

#### ①サマリアの女性

イエスさまはエルサレムからガリラヤに戻る途中で、サマリアの地に立ち寄りしました。サマリアの人たちはイエスさまたちユダヤの人とは仲が悪く、道であっても挨拶もしない、言葉も交わさない人たちでした。ユダヤの人たちはエルサレムで神さまを礼拝していましたが、サマリアの人たちは自分たちの住んでいる地域にあるゲリジム山というところで礼拝をしておりました。お互い自分たちの方が正しいと考えていたのです。

サマリアを避けて通るのは大変でしたが、できなかつたわけではありません。イエスさまはあえてサマリアを通る道を選んだようです。

ちょうど、シカルという町に差し掛かった時にお昼の時間になりました。弟子たちはみんなでお昼を探しに行きます。イエスさまは井戸の近くで休んでおりました。そこに一人の女性が水を汲みにやっ来ています。今のように、キッチンで蛇口をひねれば水が出てくる時代ではありません。みんな毎日井戸に行つて水を汲まなければなりません。普通は朝や夕方涼しい時間に水を汲みに来るのですが、この女性はわざわざお昼の暑い時間に水を汲みに来ていま

す。あまり周りの人と顔を合わせたくなかつたようです。イエスさまがこの女性に「五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない」とおっしゃっています。どんな事情があつたのかわかりませんが、陰口を叩かれたり、後ろ指を指されたりすることがあつたのでしょうか。ユダヤの人々から差別されるサマリアの人々の中で、さらにまた差別される立場だつたわけです。

#### ②イエスさまの目的

そんなわけですから、イエスさまがサマリアの女性に声をかけた時に、彼女はとて驚くのです。しかも話をしているといつの間にか、イエスさまが女性に水を求める話が、女性がイエスさまから水をもらう話になってきます。自分が与える立場のはずなのに、この人は自分に何をどのように与えるというのか、女性の中に知りたい気持ちが起こってきます。イエスさまの「永遠の命に至る水」を与える宣言を聞いて、女性は自分の目の前にいる人物が特別な人物であることを知ります。さらに初めて会つたはずのイエスさまが自分の身の上を知つておられることが判ると、彼女は自分の目の前にいる人物が何か特別な人であると知るのでした。

そこで、彼女は質問をします。それは、どこで礼拝すべきかという質問でした。何かまた突然全く関係ない話になっているようです。けれどもこれは彼女にとってとても大切なことでした。礼拝の場所は彼女が属するサマリアの人々とイエスさまたちユダヤの人々との間の最も重要な対立点でした。サマリアの人たちはゲリジム山で礼拝を献げるのが正しいと教えている。一方ユダヤの人々はエルサレム神殿で礼拝することだけが正しい礼拝だと考えている。どんな神さまをどんな風に信じるのが正しいのか。それは、自分の生き方を決める時に一番大事なことなのです。

### ③神さまを知る

サマリアの女性の質問に対して、イエスさまの答えは、とても大事なことを教えてください。大切なのはどこでどんなやり方で礼拝をするかということではないのです。一番大切なのは私たちが神さまを礼拝する時に「霊と真理をもって」礼拝しているかということです。ちょっと難しい言いかたかもしれませんが。分かりやすく言うとこれは、私たちが礼拝の時に誰と会っているかをちゃんと知っているかが大切だということです。

私たちも、今礼拝をしています。礼拝で私たちは誰と会うのでしょうか。お友達と会っています。先生や教会の人達とも会います。それもとても楽しみなことです。でも、一番楽しいこと、一番大切なことは、

礼拝で神さまとお会いするということです。神さまは目に見えないお方ですから、目で見て耳で聞いて手で触って神さまとお会いするわけではありません。でも、聖書の中で神さまは私たちにいろいろなことを教えてください。聖書のお話を聞いてみると、神さまが私たちにいろいろなことを教えてください。礼拝では何が大切か、神さまを信じるには何が大切か、神さまとはどんなお方で、私たちはどんなものなのか、そんなことを何でも全部教えてください。この神さまを礼拝の中で出会うのであれば、それはどんな場所でも、誰と一緒にあっても、本当の礼拝なのです。

サマリアの女性もイエスさまと出会うと、サマリアの人であろうとユダヤの人であろうと、本当に心から神さまを知って、心から神さまを礼拝することができることを知りました。相手を責めたり、仲間はずれにせず、仲が悪かった人達とも一緒に礼拝ができることを知りました。それは、この女性自身、サマリアの町の仲間たちともう一度一緒に仲良く過ごすことができることを教えるものでした。そして実際に、このあとこの女性はシカルの町の他の人達と一緒にイエスさまの教えを受けることになるのです。

神さまのことを知るというのはこんな風に私たちに一番大事なことを教えてください。私たちの毎日を変えてくださるのです。礼拝で、聖書で神さまと出会い、神さまを知っていきましょう。(長田詠喜)

---

#### 《今週の暗唱聖句》

まことの礼拝をする者たちが、霊と真実をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。

(ヨハネによる福音書4章23節)

4月26日 ヨハネによる福音書4章7節～26節

【分級展開例A】

## 神さまを知り、神さまの栄光をたたえる

### 〈はじめに〉

“イエスとサマリアの女”の対話によって、「神を知る」に至る経緯がわかる。イエスという方を「救い主キリスト」と知るまでのサマリアの女の心の動きを、伝える。「神さまの栄光をあらわす」ことは、20節から24節の間に十ある「(神さまを)礼拝する」という言葉で言い換えて話すこともできる。

### 〈もんだい〉

サマリアの女は、イエスさまと話をしているうちに、イエスさまがキリスト(メシア=救い主)だと、だんだんと気付きました。

サマリアの女は、次のように語りました。

- ①「ユダヤ人のあなた」
- ②「あなたはヤコブよりも偉いのですか」

③「主よ、その水をください」

④「メシアが来ることは知っています」

⑤「……」

イエスさまは、次のように語られました。

⑥「水を飲ませてください」

⑦「あなたに生きた水を与えたいだろう」

⑧「与える水を飲む者は決して渴かない」

⑨「わたしを信じなさい」

⑩「それは、このわたしである」

⑥→①→⑦→②→⑧→③→⑨→④→⑩→

⑤の順番に並べて読んでみましょう。

(前もって、ひらがなで書いた短冊①～⑩をつくっておきましょう。)

⑤は、聖書にはありません。サマリアの女が言った言葉は何だったと思いますか？自由にサマリアの女になって答えてみましょう。

4月26日 ヨハネによる福音書4章7節～26節

【分級展開例B】

## 信じて歩む道：神を知る喜びに生きる

キリスト教の信仰は、「知る」ことが本質的な意味を持っている。「知る」ことは、ただ知識を蓄えることではなく、「聞く」—「受け入れる」—「告げる」という一連の動きを指す。また信仰について知ることは単に知的な作業ではなく、霊に語りかけ、聞く者の感情を動かし、神との関係と人との関係を和解へと導き、全人的な回復を与える。この若いと回復の喜びを知ることが、私たちをまことの礼拝へと促す。

1. イエス様はどこからどこへ行こうとして、どこの町にいましたか？
2. イエス様が出会った女の方は、どんな人でしたか？
3. イエス様は女の方に、何を頼みましたか？
4. 女の方は、イエス様の頼みを聞いてどう思ったのでしょうか？
5. 女の方はイエス様に何を質問しましたか？
6. 「まことの礼拝」とはどんなものですか？
7. あなたは、どんな礼拝をしたいですか？

4月26日 ヨハネによる福音書4章7節～26節

【分級展開例C】

## 信じて歩む道：神を知る喜びに生きる

1. ユダヤ人たちとサマリア人はどんな関係でしたでしょうか？
2. サマリアの女の方は、最初イエス様にどんな印象を持ったでしょうか？
3. 話をするうちに、イエス様に対する印象はどんな風に変化したでしょうか？
4. 最終的に、サマリアの女の方は、イエス様をどんなお方だと思ったでしょうか？
5. サマリアの女の方はどうして、礼拝の場所についてイエス様に質問したのでしょうか？
6. イエス様は、本当の礼拝はどんな礼拝であると教えているのでしょうか？
7. 本当の礼拝をささげるために、私たちはどうすれば良いと思いますか？